

# 運動する楽しさを味わい、進んで運動に親しむ児童の育成

## 大分県中津市立如水小学校

全校児童数	358名(男子191名 女子167名)		
全クラス数	14	教職員数	30名
体育専科教員訪問学校数			8校
訪問校	豊田小、北部小、小楠小、沖代小(4~9月) 真坂小、樋田小、鶴居小、和田小(10~3月)		
体育専科教員名		本田 賢一	

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組時の課題

- ◆全体的に走力、瞬発力、筋持久力の項目は全国平均値を上回っているが、投げる能力が低い傾向がある。
- ◆児童アンケート「外でよく遊ぶか」に対し肯定的な意見(A層、B層)は約75%となっているが、A層に着目すると約56%となっている。  
スマホ、タブレットでのゲーム、動画視聴の時間が長い。
- ◆社会体育経験者とそうでない子の運動能力や関心の度合い、スポ少の種目以外の動きの欠如(サッカー一部は走力が高いが投げる能力がない)

#### 2 取組の計画

- ① 投げる力を養うための単元、内容の工夫。  
(ゴール型の場合)  
バスケットボール、サッカー、ラグビー  
↓  
ハンドボール
- ② 投げる力を養うための教材、用具の工夫、開発  
ゴム、革製ボール→ウレタン製、布製

### Do：実践内容

#### 1 ハンドボールで投げる力を自然につける。

- (1) ボールになじませる。  
3年生よりハンドボールの授業を実施し、ボールを捕る、投げることを当たり前のようにこなせる力を育成していった。学年があがるにつれて攻撃方法、守備、GKのセービング等高度な動きの工夫を考えていった。
- (2) 場、教具の工夫で苦手な子も取り組みやすく。  
限られたスペースでの授業であり、安全性も考慮しながらの授業となることや、ハンドボール独特の素早いパス回しや豪快なシュートに対応できるように、ボールを工夫したり、ゴールの大きさやゴールエリアの広さなどを調整したりしてゲームや練習を行った。

#### 2 若手教員の体育授業力向上

- (1) 体育授業に対する意識改革  
国語、算数などと同じように体育も系統性があり、綿密な準備、計画のもと行われていることを体育専科教員の授業を見せたり、ともに行ったりする事で

体験させた。一見何気なく行っているように見える体育授業も、細かい安全対策や技の見とり、教具やルール等の工夫が行われていることに気づかせ、体育の楽しさを教員も味わえるようにした。

#### (2) 効率的な準備と指導

学級担任をしながらの体育授業の準備は大変な物である。少しでも負担軽減となるように効率的できれいなラインの引き方をはじめとする準備全般、ICT機器を用いた授業の展開を指導した。

#### ●工夫したこと(&苦労した点)

- ① 教具の工夫と開発。  
学年が低ければ低いほど、教具の見た目や手触り等に敏感であり、意欲の向上、低下につながっていくため、堅い→柔らかい、高い→低いなど見た目と手触りなどに考慮した教具を考えた。
- ② 体育専科教員の授業を公開  
ハンドボールを知らない教員のために、ハンドボールの授業を公開し、誰でも手軽にハンドボールの授業が実践できるようにした。

### Check：取組の成果

- ① 授業の公開もあって、ハンドボールやウレタン製のボールが市内各校に広がりつつある。
- ② 訪問校だけでなく、市内の学校から専科教員の派遣要請が来るようになった。  
(例) スケート学習における技能指導要請

### Action：今後の課題

- ① 体育専科教員の持つ専門知識、授業実践などを記録し、市内で共有、閲覧できるシステムを構築する。
- ② 子どもたちだけでなく、教員も体育に親しみ、進んで実践し、運動することのたのしさを味わえるように啓発していく。

### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

子どもたちが体育が好きで、楽しみにしていることを行員が知り、その期待に応えられるように授業を考え、実践していく。そのことで学級、学校に活力と規律を生み出し、安全、安心な学校生活を送ることができる。

ハンドボール授業の様子



長縄お手本動画作成



鉄棒指導 (ひざかけ回り)



指導法紹介 (かかえこみ跳び)

